「日々の理科」（第 1510 号） 2018（H30),-8,27

「初秋の八島湿原（８）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

この湿原にはチョウも多いはずだ。実際に歩いてみると、この茶色いチョウがたくさん飛んでいた。

ヒョウモンチョウ（豹紋蝶）の仲間ということはわかるが、私には同定が難しい。私は「ウラギンヒョウモン」と思ったが、「ミドリヒョウモン」にも見える。どうも自信がなかったので、チョウに詳しい大学の先生にお聞きした。やはり「ウラギン」だった。

「ウラギンヒョウモン」は「裏銀豹紋」の意味である。翅の裏側が銀色っぽい色をしているので、この名がある。花に止まって、翅を閉じると、裏側の色がよくわかる。よく似た種類に「ミドリヒョウモン」がいるが、これは翅の裏が緑色がかっている。

背中（胴の表側）には、細毛が密集している。よく見ると、やや緑色に見える。この緑色は、実際の細毛の色ではなく、光の干渉によるものだろう。

アザミの花を好むようだ。アザミはたくさんの花の集まりなので、一つの花穂に止まると、次々のストロー（口吻）を差し込んで、吸蜜している。人の気配を恐れず、標準レンズでここまで寄れる。実に撮影に協力的なチョウだ。

ヒョウモンチョウの仲間は、成虫が比較的長寿なものが多い。数ヶ月生き続けるものもいる。このチョウなど、色あせて翅がボロボロになり、何の種類かも定かでない。生き物の健気な姿に、少し感動した。